

保健「性への関心・欲求と性行動の選択」 ～教材化の試み～

保健体育科 土方伸子

I. はじめに

女子校で行う保健の授業は、女子校だからこそ異性の目を気にせず、本音で意見をぶつけ合うことができるメリットもあるが、一方で、異性不在により多様な視点が得られず、理解が深められないデメリットもある。

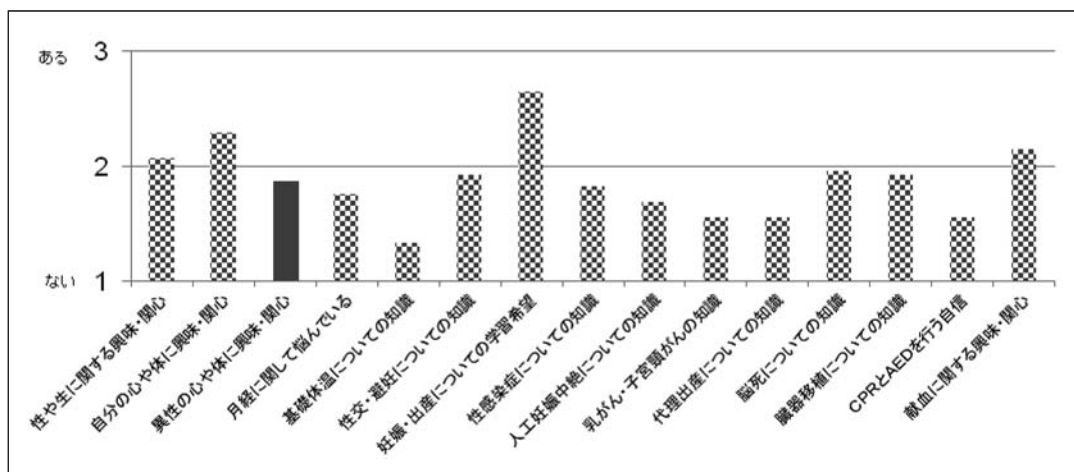
特に、思春期のころを扱う授業では、コントロールが難しいこの時期の自分のころを見つめるだけでなく、他の異性や同性のころを見つめる作業も必要である。しかし、残念ながら本校には男子生徒がおらず、また多くの生徒は異性と深くつきあう経験を持っていないため、異性のころを理解するのが難しい環境にある。そのような中で、教科書に記述されている「性への関心や欲求には性差・個人差がある。異性の心と体をよく理解し、尊重しましょう。」と話をしても、頭だけの理解に留まってしまう。

そこで、思春期にある男女の性意識や性行動の違いについて、実感を伴った理解を促すため、また、正しい物の見方・考え方を養い、誤解や偏見を持つことなく異性と上手く向き合える姿勢を身に付けさせるため、教材化の試みを行った。

II. 対象生徒および実態

高校3年生女子117名（39名×3クラス）に45分×2時間の保健の授業を実施した。図1は、授業開始前にとった無記名式事前アンケートの結果である。他の学習項目に比べ、異性の心や体への興味関心はあまり高くないことがわかる。

図1 2012年度保健授業前アンケートの結果



Ⅲ. 実践概要

1. 本授業を実施するにあたり、事前に学力レベルに大差のない都内男子高校生約150名（3年生×3クラス）に事前アンケート調査を実施
2. 1時間目授業
 - ① 男子高校生と同様のアンケートを本校生徒にも実施・一旦回収
 - ② 男子高校生のアンケート結果を配布
 - ③ 一旦回収した本校生徒のアンケートをランダムに再配布
 - ④ 本校生徒と男子高校生のアンケート結果を比較し、相似点・相違点・感想をグループごとにまとめる
3. 2時間目授業
 - ① 性ホルモンの働きと性差・個人差
 - ② 正しい性意識とは
4. 本校生徒の授業後の感想

Ⅳ. 授業内容

1. 1時間目の授業

1時間目の授業では、男女の高校生に同じアンケートを実施し、結果を比較することにより、男女の性意識に違いがあるのかを検証した。これにより、指導書に記載のある『男性は肉体的な関係を結びたいと考え、女性はロマンチックな憧れをもって接しようとする傾向』の違いを読み取ることができた。しかし、男子生徒の中にも、やや過激と思われる回答をする者と女子生徒と変わらない回答をする生徒があり、性意識の違いは、性差というくくりのみならず、個人差という視点を持つことが大切であることを理解させた。資料1は、授業前に男女の高校生に実施したアンケートやその回答である。

資料1 授業前に実施した男女高校生へのアンケート

仮に、今あなたに彼女（彼氏）がいたとします。

Q1. 今日は、大好きな彼女（彼氏）との初デート。

誰と、どこで、何をしていますか？ その時、あなたはどんな気持ちですか？

Q2. (初デートから3か月が経ちました。今日は、大好きな彼女（彼氏）とデート。

以下Q1と同じ)

Q3. (初デートから6か月が経ちました。以下Q2と同じ)

Q4. (初デートから1年が経ちました。以下Q2と同じ)

回答の条件は、各問に関する質問は受けつけず、また、仲間と相談をすることなく、問を聞いて頭に思い描いたことを2分間で記述することとした。Q2以降は口頭で質問をし、同様に回答させた。授業では、本校生徒たちに実施したアンケートを一旦回収してから男子高校生の結果を配布し、目を通させた後、再び本校生徒のアンケートを配布した。本校生徒のアンケートは、筆跡で個人が特定されないように、他クラスや過去のアンケート用紙を混ぜ、ランダムに各グループ10枚ずつになるように配布した。生徒たちは予想外の展開にかなり興奮した様子を見せたが、その後、黙々とアンケート結果に目を通していった。

資料2は、女子高校生（本校生徒）、資料3は男子高校生の回答（1クラス分）である。

資料2 女子高校生のアンケート回答

仮に、今あなたに彼氏がいたとします。

Q1. 今日は、大好きな彼氏との初デート。

誰と、どこで、何をしていますか？ その時、あなたはどんな気持ちですか？

彼氏と、映画を見てる 幸せ、楽しい、ドキドキ

Q2. (3ヶ月後)

彼氏と、地元のお祭り やっぱり嬉しい 楽しい 幸せ

Q3. (6ヶ月後)

彼氏と、遊園地で遊ぶ、 上に同じく。ドキドキは最初より薄れるけど、幸せ度は上がりそう

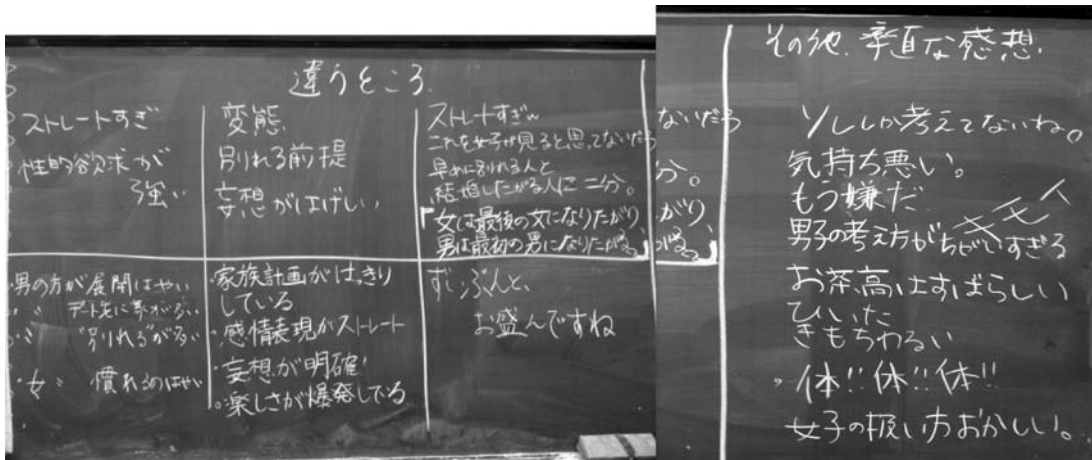
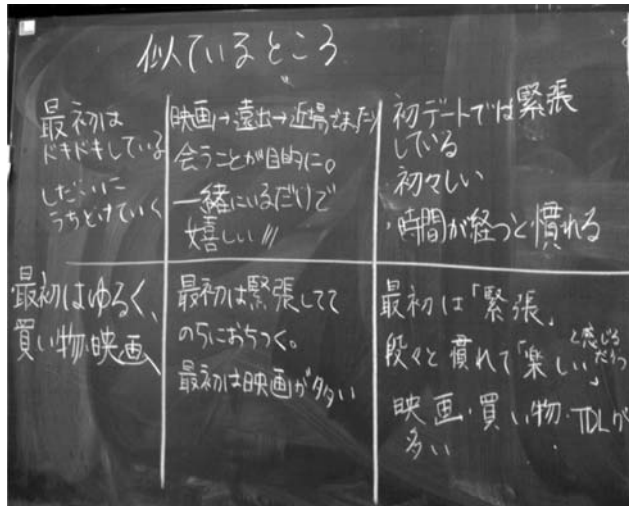
Q4. (1年後)

ディズニー

彼氏と、お散歩、おしゃべり 一緒にいて落ち着く やっぱ幸せ

資料4は、高校生男女のアンケート結果を比較し、＜似ているところ＞＜違うところ＞＜率直な感想＞についてグループ内でまとめ、板書をさせたものである。

資料4 本校生徒と男子高校生生のアンケート結果を比較した様子



この比較により、どのクラスでも＜率直な感想＞は、異性に対する否定的な記述が目立った。そこで、2時間目の授業では、男女の性意識の違いがどこから生じているのか、性差や個人差、正しい性意識について考えることにした。

2. 2時間目の授業

資料5は、授業で使用したプリントである。「セクソロジー・ノート」(村瀬幸治編著、十月舎)から抜粋した。

資料5 授業で使用したプリント

3年生保健

組 番 氏名 _____

性的欲求と性行動

～ひとはなぜ性に近づくのか～

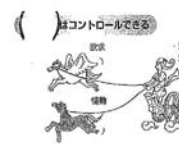
1 性差と個人差

- 男性的欲求は抑えがたいほど強く、女性のそれは男性的よりも具体的な形（性交からオーガズムへというように）をとることはあまりないといわれる。また男性は恋愛（他のこと）によって興奮するが、女性は恋愛（さわり、さわられること）によって性的欲求が目覚めていくといわれる。さらに、男性はマスターベーションによって早くから快感（オーガズム）を知ることが多いともいう。いずれもすべて関連しているというわけではないが、どうも共通して男性主導、女性受動的性が強調されているように、問題を感ずる。本問がそうであろうか、そのようにこれらでいわれているうちに、何となくそんなように思い込むようになったのではないだろうか。何しろ長く続いた男性主導の性別社会である。さまざまなことが男性に都合よく考えられ、解釈され、述べられてきたのであるから、何となく思いつかなくてはならない。
- かつて男性的欲求が女性に比べて短期間で弱まることがないのは、毎日休まずつくづく続けられる精子が、射精されると溜まり続けるからだとわかってきた。種かに女性にしてみると、射精によって性的関心や欲求が顕著に減退することもあった。男性に比べて女性に比べて性的関心や欲求が顕著に減退することもあった。溜まった精子の存在が欲求の刺激源と材料に思ってしまうのも、その意味では無理もないかもしれない。
- しかし、事実がそうではない。第一、精子は射精されるまでどこかにずっと溜まり続けるわけではないし、貯え続けておけるようなものでもない。考えてみれば、例え1日1か月射精しなければ、半年しなければ、その後射精のときに1か月前や半年前の精子がまだ生きていて、また出て出てくるとか古い精子が出てくるなどということはないわけである。そして、いつも新しい、受精能力を持った精子が出ているというところ、古い精子は死んでいなくなってしまうと考えるを得ない。そして、事実はその通りである。
- ところがこの、実に単純な事実が押し付けられているために、「溜まり続ける」から抑えがたいとか、だから攻撃的になるのだとか、だから興奮行動が昔からあったか、だからどんな男でもレイプをしたいと思うものだというような、とんでもない議論がまことしやかになされてきた。そしてそれは、男女の性関係のあり方を深くここで定めてきた。

- 1 / では一体、何が性的欲求を引き起こすのであろうか。三冊一冊は「精子産生や受精についての基礎知識」という文章の中で、「精子が貯留されると性欲が高まる（性欲が高まる）ことはありうるか」という項に、次のように書かれている。
- 「男性不妊症の人で精子の貯留がない人、例えは過剰射精や高頻度射精不全による不妊
- 5 子能や無精子症の人の性機能を測定した著者らの研究では、造精機能の正常な人よりも、むしろ男性不妊症の人のほうが性交欲が有意に多かったという結果より考えてみても、精子の貯留は性欲にはほとんど関係ないと考えられる。
- また、昔より経年の貯留が性欲を高めるのではないかと思われていたが、最近の研究では動物実験において、膀胱を切除したり貯留するといわれている精嚢を摘除しても、少なくとも射精前においては、射精自身に不可欠な性機能の増進作用はあるとは考えられないとされている」
- そして、「性欲（射精欲）は精子や精液の貯留が関与しているのではなく、心理的な因子とそれに伴うホルモン因子（アンドロゲンの生理作用）が大きく関与しており、これらが性欲（射精欲）に影響しているのではないという考え方が一般的である」と結論づけた。
- 15 / ここであらためて男性ホルモン（アンドロゲン）の働きについて、まとめて理解しておこう。このホルモン、以前にも紹介したが、男性だけに存在するのではなく女性の血液の中にも、男性に比べて10分の1程度の量が含まれているといえる。そしてその働きのひとつが
- 「性衝動の発現、つまり衝動に作用して性的欲求を高めることなのである。この意味で、女性よりも男性のほうが一般的に性的衝動、性的欲求が高いという物質的な根拠はあるとい
- 20 ってよいだろう。しかし、それには大きな個人差があることもともより、その衝動なり欲求なりをどのように自覚し表現するかは「心理的な因子」、つまり大脳皮質の働きが収束的な力を持っているのである。そしてそれはその人の性格、学習、価値観、環境、人間関係、生活などによって左右されるのではないであろう。
- このことは性的欲求の性質として要しよう。女はこうというように、しばしば理屈的に
- 25 扱われることへの批判にもなる。この性的欲求について類同にとらわれた考え方は、ときには自分へのコンプレックスにつながることもあるので、よく留意したい。その意味では性差よりも個人差、しかもその個人にしてもいろいろと一定ではなく、種々の環境、体調、
- 30 関係、心のあり方などによって絶えず変動することに注目することが重要といえる。

図表42 男性ホルモンの働きには次のようなものがある

- (1) 精液の生成促進、精子の成熟を促すこと
- (2) 骨密度の増進と骨化の促進
- (3) 精子をつくる機能を高める
- (4) 肥満の予防、血圧の低下
- (5) 脂肪を燃やしてエネルギーを供給する



個人差はあるが、だれもが性的欲求をもち、「手をつなぎたい」「異性の体に触れたい」「触れたい」などの欲求が感じることがよく見られることである。しかし一方で、こうした本能的欲求をコントロールできず多量に表現してしまう人も少なくない。これは、本能的欲求のままに行動するのではなく、「性的欲求のままに行動するとどういった結果になるのだろうか」「いまは、それよりも別のことに関心をつけよう」と考えるのは、大脳皮質の働きが抑制的に関与しているからである。

出典：『原創集 SEXOLOGY NOTE』村瀬 幸市編著、十月舎
図説 最新保健 p.98-99

プリントに目を通してながら、以下のように授業を展開した。

- ・男性ホルモンの働きの1つ…性的欲求を高める
 - ・男性の男性ホルモン量は女性の10倍
 - ・男性ホルモンの分泌量は17・18歳がピーク
- ↓
- 男子高校生の過激な回答への理解も必要

しかし、男性に都合よく考えられ、解釈されている、あるいは思い込まされている誤った性情報も多い。

(情報源は、友人や先輩、雑誌、インターネットが多い。…教科書参照)

大切なことは…

- ・信頼できる情報源から正しい性知識を身につける
- 男女の性関係の歪みを正す

- ・互いの意思を伝え尊重し合える関係を築く
→それで悪くなる人間関係ならそれまで
- ・性差よりも個人差、個人の中にある差（変化）に注目することが大切
- ・性的欲求はコントロールできないが性行動はコントロールできる
→人間には理性がある



理性で性行動をコントロールできないと…
 ストーカー行為、デートDV、セクシャル・ハラスメント等、様々なトラブルが起こる。

ここまで話をまとめた後、資料6の新聞記事「恋人から暴力」を紹介し、見出しの言葉から、頭に思い描いた場面の加害者と被害者の性別を生徒たちに問うと、多くの生徒が加害者は男性、被害者は女性と答えた。

そこで、「いつも気を使わされる」と回答するのは男性に多いことを指摘し、男性も女性もトラブルの加害者そして被害者になり得ること、また、無意識のうちに女性の被害者意識が醸成されていることを理解させ、正しい物の見方・考え方、誤解や偏見を持つことなく異性と上手く向き合う姿勢を養うことの大切さを確認した。

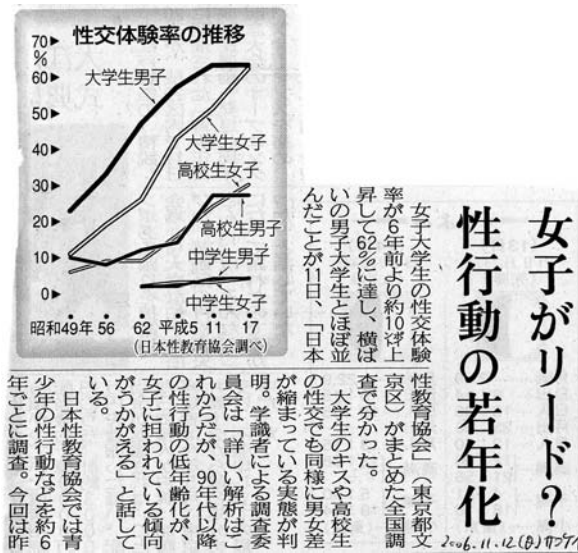


資料6

次に、資料7の新聞記事「女子がリード？」を紹介し、「実は女性の方が性的欲求が強かったのだろうか？」と生徒たちに問いかけたところ、「女子高校生は年上の男性と付き合うことが多いから、求められると断れず、性交の機会が増える。」「女性の性意識がオープンになり正直に回答をする女子高校生が増えた?!」「援助交際?!」といった回答が返ってき

た。そして、「今後、このグラフはどのような推移をたどっていくと予想するか？」という問に対しては、「ますます女性が伸びていく。」「男子は横ばい?!」との回答が多かった。また、「これらは理性でコントロールした行動の結果と言えるだろうか？」と問うと、生徒たちは首を振ったり、傾げたりした。

女性も、経済的・精神的・社会的に自立するだけでなく、性的にも自立する、つまり、自分のこころとからだに関わる問題を他人任せにせず、自分の意思で自分を守る姿勢が大切と話し、授業のまとめとした。



V. 授業後の生徒たちの感想

- ・女性はずっと性的欲求を含む思春期のころ、ホルモンとの関係性などを知り、単に男性を批判するのではなく、平等な立場で向かい合うべきなのは。
- ・歴史的に見て、色々な物事が男性優位で行われてきた。それを性的な場面でも引きずっている。流れを変えようとするれば異端と見られる。だから男女の性差が埋まらない。草食男子が増えつつある現在、流れが変わるか？
- ・フラれた原因は性交渉を2回断ったから。ショックだったが、「自分の気持ちを大切にする」を聞いて、自分は間違っていなかったと思った。
- ・予想以上に肉体的なつながりを重視していて引いた。恋愛の向き合い方が違うのに、どうして交際することができるのか？どちらの恋愛観に合わせて交際しているのか？
- ・男子校に通っている彼氏に「やらせてよー」としつこく言われ、気持ち悪く、不快で別れた。授業で、そういう時期とわかって、ずっと『気持ち悪い、無理』と思っていたことを反省した。一生きもいと思っていたかもしれない偏見を直すことができて良かった。
- ・DVは女性から男性へのケースもあり得るということによくよく考えたら気が付いた。思い込みを捨てて、正しい知識を身につけることで、性をめぐる問題に対処したい。

- ・性欲はコントロールできないが性行動はコントロールできるというのは＜差別＞と同じ。差別感情は本能だけど、人間はそれを理性で抑え行動に移さないことができる。
- ・性行動は男性主導で女性はいつも受け身なイメージ。妊娠のリスクを考えれば、女性主導も当たり前かも。はっきりした意思が伝えられない関係に本当の愛はない。
- ・未経験の私はやばいのかな……とってしまうが、他人は他人、自分は自分の精神でいればいい。性について臆病になりすぎてもいけないと思った。知らないことが一番怖い。出典のわからないネット上の情報などを鵜呑みにしない。
- ・女性の性交体験率上昇の原因は、中学校時代に流行った＜携帯小説＞が身近にあって性行為を当たり前を感じる人が増えたためではないか？
- ・最近の漫画や本は、ほとんど恋愛ストーリーで、男が女をエスコートする。かつては何の疑問も持たなかったが、今となっては疑問。女が男をエスコートすることだって普通にあり得るはずだ。作者の多くが女性で、＜男が女をエスコートする＞ことをのぞんでいるのか。
- ・男尊女卑の日本の昔からの文化は悪くない。わざわざ大きく変えたり、避難したりするのは変だ。考え方に差があるのも当たり前。
- ・性行動の若年化にも関わるが、日本の性教育に疑問を感じた。現代では性教育の仕方や時期を検討すべきだ。
- ・女性が男性を理解しても、男性が女性を理解する気がなければ意味がない。
- ・女子校でこの授業をしたが、共学だったらどんな風になったのか気になった。

VI. まとめ

生徒たちの授業後の感想から、今回の教材化の試みは、概ねねらいに沿った理解を生徒たちに促すことができたのではないかと手応えを得ることができた。しかし、この試みについて、ある研究大会で発表した後、共学校の先生から次のようなお声をいただいた。「共学でこの授業をやったらどうなるのか興味深い。女子は精神的なつながりを求め、男子は肉体的なつながりを求める傾向があると聞いて『そうかなあ…。』と思った。最近の生徒は、男女がとても仲良しで、頭と頭をくっつけるようにして何かを覗き込んでいる姿も見られる。それが男女の関係というのではなく、幼馴染のような関係に見える。」この言葉は、指導者自身が日頃女子校で目にするのではない光景であり、実は、教科書や指導書の記述内容を鵜呑みにし、高校生の実態を十分に把握しないまま不十分な情報を生徒たちに提供したのではないか、指導者自身に偏った見方があったのではないかという視点を与えられた。最近の新聞記事に、「消極的な若者」「16～19歳の若い世代の47%がセックスに無関心または嫌悪感を抱いたりしている」「草食化どころか、草すらはまない」とあった（資料8）。性の問題は、生の問題でもあり、社会状況との関わりも深い。若者が「草すらはめない」状況に陥っている真の問題はどこにあるのかなど、社会背景も含めて性の問題を取り扱っていくことも必要であろう。

